

火山灰が降る街で

松鶴 さとみ

鹿児島大学工学部建築学科

今回、「薫風」への寄稿の機会をいただき、ありがとうございます。

原稿の依頼をいただいてから、「室内環境に関する話題」で、何を書けばいいのか悩みながら、モヤモヤする日々を過ごしていました。しかし、この期間にもう一つのモヤモヤにも悩まされていました。今回は、そのもうひとつの「モヤモヤ」について書いていくことにします。

もう一つのモヤモヤとは、「火山灰」です。鹿児島（特に錦江湾沿い）に住んでいれば避けて通れないものの一つです。降灰があれば、目はゴロゴロ、髪はギシギシ、喉や鼻はイガイガ、ムズムズし、なんとなく皮膚もチクチクして、咳き込むことが増えます。

毎朝の天気予報と一緒に、桜島の風向きを確認するのは日課です。火山はいつ爆発・噴火するのか全く分からないため、雨以上に厄介です。天気がいいからと窓を開けていたら、シャワーを浴びていた数十分の間に、かすかな硫黄の臭いと一緒に火山灰が入ってきて、掃除や洗濯のやり直しなんてこともありました。火山灰が室内に入ると、掃除機だけではザラザラした感じが取れず、雑巾掛けもすることになり、イライラと掃除の手間が増えます。

きちんと窓や扉を閉めていても、火山灰は隙あらば室内に入ってきます。24時間換気システムや全熱交換器は、掃除をサボるとすぐに黒い汚れが目立つようになり、異音がしはじめます。24時間換気システムなどの重要性を理解していますが、正直なところ「スイッチを切りたい」と思ったこともあります。色々と試行錯誤をした結果、「全ての給気口や換気扇に、市販の不織布フィルタを付けて、こまめに交換・掃除する」ことに落ち着きました。また、玄関の三和土は、服や靴の裏についた火山灰ですぐに汚れ、滑りやすくなります。特に、土足で出入りする職場の床などは滑りやすく、モップ掛けするとすぐに真っ黒になり、拭き筋が残りやすいので、手間もかかります。

降灰後の洗車も結構大変です。火山灰を巻き上げないように、車の中からそっとモップを取り出し、風向きを見ながらモップでおおまかに灰を掃い、フロントガラスに水をかけて灰を洗い流して、やっと駐車場から車を動かせます。最近は、車のフロントガラスに積もるほどの「ドカ灰」は少ないですが、降灰の度に車が汚れるので、頻繁に洗車することになります。ガソリンスタンドで「洗車機が1時間待ち」だの、「洗車入口に10台以上並んで渋滞」などは、降灰後の休日によくある光景です。

ちなみに、火山灰は水を含むと固まりやすくなり、そのまま流すと排水・雨水管や排水溝を詰まらせる恐れがあるため、写真のように専用の灰収集袋（克灰袋）に入れて灰置き場に出します。

火山灰が降る街に移り住んで丸9年。火山灰は生活だけでなく、仕事（実測など）の邪魔もする厄介者ですが、せっかく特色のある街に住んでいるのだから、何かしら研究にも生かしていきたいと思っています。



写真1 克灰袋と灰置き場